

ShinSei

SDGs

Report 2023



真誠グループSDGsレポート





トップメッセージ

真誠の創業理念は「真心と誠実を貫き通す」です。
創業者である富田信哉の想いです。

その想いは社会にも向けられており、2008年12月に「CSR憲章」「CSR憲章に基づく行動規範」を制定することにつながりました。

これら社会的責任を果たすための行動宣言は、食を通じて社会に貢献していく指針となっています。
そして、創立50周年を迎えた2011年には、新たなコーポレートメッセージとして「すべての人を笑顔にしたい」を定め、企業としての存在意義をより明確にしました。

これまでに、ステークホルダーの皆様から寄せられた期待や要望に触れる機会を通じて、弊社が取り組むべきことへの理解が深まり、2022年7月に「人も地球も、健康に生き続けられる食のあり方を追求し、すべての人が笑顔で暮らせる社会を作る」をミッションステートメントとして「真誠グループSDGs宣言」を制定しました。

SDGs宣言の達成に向けた取り組みを、社員・お客様・お取引先・地域社会などのステークホルダーに広げ、環境・社会・経済まで多岐に渡って、持続可能な社会の実現に向けたサステナビリティ経営を実践してまいります。

企業活動を継続するためには、売上や利益を追求していかなければなりません。
しかし、その活動によって生じる様々な社会的課題に目を向けることも当然の責務であり、これらの課題への対応を企業の社会的責任と捉え活動していきます。

2023年は「ありたい姿」を実現すべく、重要課題に対する具体的な取り組みをスタートさせ、その活動の見える化、社内コミュニケーションの強化によりPDCAを実践してまいりました。

そして、これからも、適宜ステークホルダーへの情報を発信することにより企業の説明責任を果たし、SDGs宣言の達成に向けて邁進していく所存でございます。

その活動自体が社員の仕事に対するモチベーションを高め、「良き企業市民」の実感につながるものと期待しています。

真誠グループは、すべてのステークホルダーの皆様から愛される企業になれるよう活動してまいります。

どうか引き続きご支援賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長 富田 博之



真誠グループ SDGs宣言(サステナビリティポリシー)

人も地球も、健康に生き続けられる食のあり方を追求し、
すべての人が笑顔で暮らせる社会をつくる。

真誠グループは、「健康文化を世界に広げ社会に貢献する」のミッションを掲げ、
その信念を社員一人ひとりが持ち、人も、地球も、健康に生き続けられる社会を追求し、
すべての人が笑顔で暮らせる持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

2022年7月28日
株式会社 真誠
代表取締役社長 富田 博之

重要課題(マテリアリティ)

環境への取り組み

- 食品ロス削減
- 資材ロス削減
- 環境に配慮した食品生産

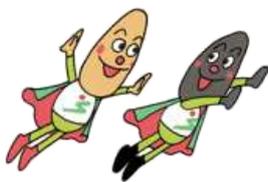
社会への取り組み

- 国内外の子ども支援
- 健康価値の追求
- 産地との共生
- 食の安全と安心

経済への取り組み

- ごまの新たな価値の創造
- 働き方と多様性

SDGs活動のあゆみ



オリジナルキャラクター
シロゴマンとクロゴマン
©やなせスタジオ



活動報告

全社	全部門	活動内容 「あいち野菜でつながるプロジェクト」などによる子どもの食育支援活動	未来に向けた社員の想い 地域や様々な団体と手を取り合いながら食育支援活動を続け、未来の世代に食の楽しさと大切さを伝えていきたい。	4 食の楽しさを伝える あいち野菜
	2029年までの長期目標 社外企業・団体との協働による食育イベントの継続（年1回）			
	2023年の進捗状況 目標 社外企業・団体との協働による食育イベントを開催（年1回）	結果 10月15日、愛知調理専門学校で子ども食堂協力による食育イベントを開催。小学生42名が参加し座学や調理などを体験。関係団体との緊密な連携が実現し盛況に終えることができた。	評価判定 到達	
生産本部	関ヶ原工場	活動内容 産業廃棄物の削減	未来に向けた社員の想い 食品の残さなど生産過程で出てくる廃棄物を少なくすることにより、地球にやさしい持続可能な社会を築いていきたい。	12 つながる責任 つなぐ未来
	2029年までの長期目標 ごま原料使用量比 原単位 0.0300（2019年比で26%以上削減）			
	2023年の進捗状況 目標 現状分析及び具体的削減手段を見つける	結果 各チームで具体的な削減手段（改善）を検討した。実施可能な項目から取り組み、その進捗確認を毎月行っている。内容によっては削減が難しい項目もあるが継続していく。	評価判定 到達	
生産本部	名古屋工場	活動内容 産業廃棄物の削減	未来に向けた社員の想い 産業廃棄物の削減に努め、地球温暖化の防止など環境課題の解決に貢献していきたい。また、有限な資源を大切にしながら生産コストを削減する取り組みも推進したい。	12 つながる責任 つなぐ未来
	2029年までの長期目標 ごま原料使用量比 原単位 0.0195（2019年比で26%以上削減）			
	2023年の進捗状況 目標 現状分析及び具体的削減手段を見つける	結果 優先度の高い使用済みストレッチフィルムの具体的な削減方法を決定し、順次実施している。	評価判定 到達	
業務本部	基礎研究チーム	活動内容 サステナブルな原料調達に関する研究	未来に向けた社員の想い 育種の研究を進め、国内で栽培しやすく安全に生産できる特徴を持つごまを生み出し、原料調達の安定性を向上させたい。	3 すべての人に 健康と幸福を つなぐ未来 9 健康と幸福の 未来をつくる 12 つながる責任 つなぐ未来
	2029年までの長期目標 付加価値の高いブランドごま製品の開発を継続			
	2023年の進捗状況 目標 付加価値の高いブランドごま製品の開発を継続	結果 本事業計画は公的補助の対象事業に採択され事業計画に則って進捗させた。一般消費者に向けた高品質な特徴だけでなく、ごま生産者に対して生産性の上がる特徴を持つごま品種作出に必要な遺伝子情報が得られた。	評価判定 超越し	
業務本部	活動内容 廃棄物や未利用資源の活用を目指す研究	未来に向けた社員の想い 廃棄されてきた未利用資源の新規機能性を生かすため、それらを利用した高次加工食品の試作及び機能性の評価を行った。その結果、一定程度の機能性を持つことが確認できた。また、その機能性を発揮する成分の合成も進めた。今後、各種試験に供試することで、特定保健用食品や機能性表示食品としての表示を目指していく。	3 すべての人に 健康と幸福を つなぐ未来 9 健康と幸福の 未来をつくる 12 つながる責任 つなぐ未来	
	2029年までの長期目標 得られた知見を用いた製品開発の試作・研究の着手			
	2023年の進捗状況 目標 基礎研究の継続 得られた知見を用いた製品開発の試作・研究の着手	結果 廃棄されてきた未利用資源の新規機能性を生かすため、それらを利用した高次加工食品の試作及び機能性の評価を行った。その結果、一定程度の機能性を持つことが確認できた。また、その機能性を発揮する成分の合成も進めた。今後、各種試験に供試することで、特定保健用食品や機能性表示食品としての表示を目指していく。	評価判定 超越し	
業務本部	品質管理チーム	活動内容 お客様サービス係：機能性表示食品・栄養機能食品・その他健康に関する問い合わせに対し、分かりやすい説明と情報を提供する	未来に向けた社員の想い 健康的な生活をお送りしていただくために必要な情報を提供し、お客様から頼りにされる存在でありたい。	3 すべての人に 健康と幸福を つなぐ未来
	2029年までの長期目標 作成した資料を必要に応じ更新し改良していく			
	2023年の進捗状況 目標 月1回、製品の特長や問合せ状況を確認し協議する	結果 お客様からの苦情・要望等に関する内容を合計39件抽出した。チーム内で各自が説明方法を考え、バズの場で発表して協議。抽出した39件の説明方法をまとめ整理した。	評価判定 到達	

食品安全管理チーム

活動内容
食品の安全と品質に関する予防及び監視

未来に向けた社員の想い
日々の改善を重ね、凡事徹底の姿勢で取り組み、食品安全に対する信頼を高めていきたい。



2029年までの長期目標
食品安全を含めた品質保証体制の維持・向上

2023年の進捗状況 **目標** 食品安全を含めた品質保証体制の維持・向上

結果 FSSC22000の更新審査完了。内部監査を実施し品質保証体制を維持。2024年目標設定の準備を開始。

評価判定
到達

企画・購買チーム

活動内容
パッケージの環境配慮

未来に向けた社員の想い
プラスチック使用量削減に取り組み環境保全に貢献したい。また、梱包資材の軽量化を通じて、作業者の負担軽減や物流効率化にも寄与したい。



2029年までの長期目標
NB製品で環境配慮資材の採用50%

2023年の進捗状況 **目標** 環境配慮の方策を検討する

結果 個装袋の材質構成を変更。樹脂の使用量削減に関する薄肉化を10アイテムで実施し計画を達成。2022年出荷ベースの試算で、樹脂の使用量を約1.3トン削減した。段ボールの紙の使用量を削減する為に、W段⇒A段・C段への変更を17アイテムで実施した。

評価判定
到達

企画・開発チーム

活動内容
保健機能食品の製品開発

未来に向けた社員の想い
保健機能食品の製品開発を通じ、日常の食事から人びとの健康を支えたい。そして、より長く元気に活躍できる社会を実現したい。



2029年までの長期目標
2022年度比で5品以上追加

2023年の進捗状況 **目標** 2022年度比で1品以上追加

結果 機能性素材の探索や保健機能食品におけるターゲット市場を調査。新しい素材の方向性が決まったので製品化に向けて検討する。

評価判定
持越し

営業支援チーム

活動内容
ごますり体験授業の活動継続と全国的な展開

未来に向けた社員の想い
ごますり体験をきっかけとして、食べることや作ることを通じて子どもたちの生きる力を育むため、社員みんながごますり体験の先生となってごまのおいしさを伝えたい。



2029年までの長期目標
ごますり体験授業を通じて、食育推進の効果による影響を与えた人数を、現在（2022年）の1716人から2万人まで増やす

2023年の進捗状況 **目標** ごますり体験授業の講師育成のためのマニュアルや動画の作成

結果 幼稚園や保育園で「ごますり体験授業」を実施し、素材となる写真や動画を撮影。既存のマニュアルをアレンジし、イベント用のマニュアルや動画を完成。2024年からは、新たに高齢者施設での「ごますり体験」を計画している。

評価判定
到達

物流チーム

活動内容
紙資源の削減

未来に向けた社員の想い
一人ひとりが意識して紙源（資源）の使用量を減らしていくことにより、私たちが住む地球の環境保全に貢献したい。



2029年までの長期目標
ペーパーレス化に向けた帳票のデジタル化（3帳票）

2023年の進捗状況 **目標** BIツール（Shinsei_BI）活用による実績等印刷物の削減

結果 システム改修は進行しているが完了までに至らず次年度に持ち越す。2024年度内に実績システムや新基幹システム改修を完了予定。CSV・PDFファイルを活用し、帳票のデジタル化によるペーパーレスを進めていく。

評価判定
持越し

胡麻の郷

活動内容
幼稚園や保育園の園児を対象とした「ごますり体験」の実現

未来に向けた社員の想い
地域の子どもたちに食育の場を提供し、食のプロセスに関わる楽しさや食べることの大切さを伝えていきたい。



2029年までの長期目標
「ごますり体験」企画を累計で10回実行

2023年の進捗状況 **目標** 「ごますり体験」企画の立案

結果 「ごますり体験」の実施計画を立て、関ヶ原町内の保育園（2園）に打診した。来年度の実施に向けて、4月以降に打ち合わせを行う調整を進めている。

評価判定
到達

北海道・東北営業部

活動内容

機能性表示食品・栄養機能食品など健康に配慮した製品の販売促進

未来に向けた社員の想い

お客様に機能食品表示食品・栄養機能食品を提供することにより、健康維持のサポートや健康寿命の延伸に貢献したい。



2029年までの長期目標

2021年度比160% (2,728ケース) の販売を目指す

2023年の進捗状況

目標 2021年度比125% (2,131ケース) の販売を目指す

結果

実績1,784ケース。年末、機能性表示食品のきな粉の販促提案に注力。高たんぱくきなこの新規導入企業が増え販売数が増加傾向にある。だし香るごまあえの素は低調だったが、来期は新規販路の開拓及び販促に注力していく。

評価判定
持越し

関東営業部

活動内容

機能性表示食品・栄養機能食品など健康に配慮した製品の販売促進

未来に向けた社員の想い

病気の予防や美容を保つためには日常の食事に気を配ることが大切です。製品を通じ、バランスの取れた食事を意識するきっかけを提供したい。



2029年までの長期目標

2021年度比160% (3,221ケース) の販売を目指す

2023年の進捗状況

目標 2021年度比125% (2,516ケース) の販売を目指す

結果

実績2,764ケース。黒ごまアーモンドきなこは夏に大手スーパーで新规定番導入があり堅調。高たんぱくきなこの販売は年間を通じて好調。だし香るごまあえの素は定番が増え前年超えで推移した。

評価判定
到達

中部営業部

活動内容

機能性表示食品・栄養機能食品など健康に配慮した製品の販売促進

未来に向けた社員の想い

機能性表示食品や栄養機能食品の普及を通じて、健康的な食生活をサポートし、高齢者の病気予防や健康維持に貢献したい。



2029年までの長期目標

2021年度比160% (2,502ケース) の販売を目指す

2023年の進捗状況

目標 2021年度比125% (1,955ケース) の販売を目指す

結果

実績1,933ケース。秋冬棚割で高たんぱくきなここと黒ごまアーモンドきなこの定番採用企業が増加。だし香るごまあえの素は特売減少などで低調に推移したので、来期、販促にて巻き返しを図る。

評価判定
持越し

近畿営業部

活動内容

機能性表示食品・栄養機能食品など健康に配慮した製品の販売促進

未来に向けた社員の想い

体に必要な栄養を摂取できる製品を提供し、健康維持のお手伝いをしたい。また、骨粗しょう症などの病気予防を通じて、健康寿命を延ばすことにも貢献したい。



2029年までの長期目標

2021年度比160% (5,590ケース) の販売を目指す

2023年の進捗状況

目標 2021年度比125% (4,368ケース) の販売を目指す

結果

実績4,366ケース。合計実績は前年超え。だし香るごまあえの素は野菜関連の販促で好調。黒ごまアーモンドきなこ高たんぱくきなこは定番の新規導入があり伸長。計画まであと一歩だったが巻き返しはできたので、来期は到達を目指す。

評価判定
持越し

中四国営業部

活動内容

機能性表示食品・栄養機能食品など健康に配慮した製品の販売促進

未来に向けた社員の想い

日々の食事で保健機能食品を取り入れていただき、健康の維持や増進をサポートすることにより、家族みんなの健やかな未来をつくりたい。



2029年までの長期目標

2021年度比160% (2,109ケース) の販売を目指す

2023年の進捗状況

目標 2021年度比125% (1,648ケース) の販売を目指す

結果

実績1,825ケース。黒ごまアーモンドきなこの新規導入企業が増えた。高たんぱくきなこは共同購入などが寄与し着実に実績アップ。だし香るごまあえの素は低調だったが来期に向けて挽回を図る。

評価判定
到達

九州営業部

活動内容

機能性表示食品・栄養機能食品など健康に配慮した製品の販売促進

未来に向けた社員の想い

健康的な付加価値が高い保健機能食品を販売し、広く普及していくことで、お客様の体づくりをサポートしたい。



2029年までの長期目標

2021年度比160% (3,446ケース) の販売を目指す

2023年の進捗状況

目標 2021年度比125% (2,693ケース) の販売を目指す

結果

実績2,955ケース。だし香るごまあえの素は野菜売場での関連販売を強化し堅調だったが、下半期に一部取引先の定番カットが影響し低調となった。黒ごまアーモンドきなこは健闘し、短期目標の達成に貢献。来期に向けて更なる育成を行う。

評価判定
到達

特販部

活動内容

大豆たん白など新素材を活用した製品の販売促進

未来に向けた社員の想い

高齢者を含む多くの人々が健康を維持できるよう、大豆由来の植物性食品を普及させることで、栄養バランスの取れた食生活をサポートしたい。



2029年までの長期目標

28,160kgの出荷量を目指す

2023年の進捗状況

目標 17,360kgの出荷量を目指す

結果

実績13,900kg。大豆フレークのサンプリングなどで新販路の開拓に注力したが、目標には3,460kg届かず着地した。

評価判定
持越し

経理チーム

活動内容

デジタルトランスフォーメーションの推進

未来に向けた社員の想い

デジタル化を推進し事務業務の生産性を向上させることにより、働きやすくワークライフバランスの整った職場づくりに貢献したい。



2029年までの長期目標

イノベーションによる事務生産性向上 有給取得義務化日数+6日以上を全員が確実に取得

2023年の進捗状況

目標 インボイス制度の導入
有給取得義務化日数+2日以上を全員が確実に取得

結果

「インボイス制度の導入」と「有給取得義務化日数+2日以上を全員が確実に取得」の目標には到達した。対価の返還に関する作業簡素化活動は現在検証中であり、その結果は次年度へ持ち越しとなる。

評価判定
到達

情報管理チーム

活動内容

ワークフローの推進

未来に向けた社員の想い

ワークフローシステムを活用したデジタル化を推進し、業務の効率化を図りたい。



2029年までの長期目標

ワークフローの推進 (5帳票)

2023年の進捗状況

目標 ワークフローの推進 (1帳票)

結果

社内の申請業務から1帳票を選定し、ワークフローシステム化を進めた。その申請業務を電子化したことにより紙での管理が不要となった。

評価判定
到達

総務チーム

活動内容

有給休暇の取得推奨

未来に向けた社員の想い

従業員がワークライフバランスの充実を通して、心身の健康を得られることを目標に進めていきます。



2029年までの長期目標

有給休暇の取得率75% (1/1~12/31 使用数÷有給休暇附与日数 在籍者のみ)

2023年の進捗状況

目標 有給休暇の取得率65%
(1/1~12/31 使用数÷有給休暇附与日数 在籍者のみ)

結果

有給休暇の取得率71%。
(対象：真誠グループ全体、2023/1/1~12/31 使用数÷有給休暇附与日数 在籍者のみ)

評価判定
到達

CSR・SDGs

活動内容

国連WFP協会を通じた食糧支援活動の維持・発展

未来に向けた社員の想い

途上国の子どもたちに学校給食を届ける支援を続け、飢餓の撲滅に貢献していきたい。



2029年までの長期目標

食糧支援活動の維持・発展 (社外ステークホルダーとの協働)

2023年の進捗状況

目標 食糧支援活動の維持・発展 (社内ブランディング活動)
WFP協会に関する情報を社内報を通じて8回以上発信

結果

社内広報誌「SDGsニューズレター」を毎月1回発行。記事の中に「国連WFP協会の豆知識」と題したコーナーを設け、全社員に向けて情報を11回発信。

評価判定
到達

対話を通じた取り組みの実践

各部門において四半期ごとに意見交換会を開催し、社員間の対話を通じた取り組みを実践しています。

“より良い未来”を実現するためのアイデアを出し合うワークショップも行いました。



ワークショップの様子



オンラインによる意見交換

環境への取り組み

Environment

廃棄物削減の取り組み



環境に配慮した食品生産に取り組むことで、人や地球に優しい企業を目指しています。関ヶ原工場と名古屋工場では、生産やサプライチェーンにおける産業廃棄物の削減に取り組んでいます。

関ヶ原工場では、ねりごま残さ（生産過程で生じる残留物）の削減など、7つの重点的な業務に取り組んでいます。具体的には、ねりごま製造における生産計画の見直しや、廃棄物排出量を測定したデータ管理などです。

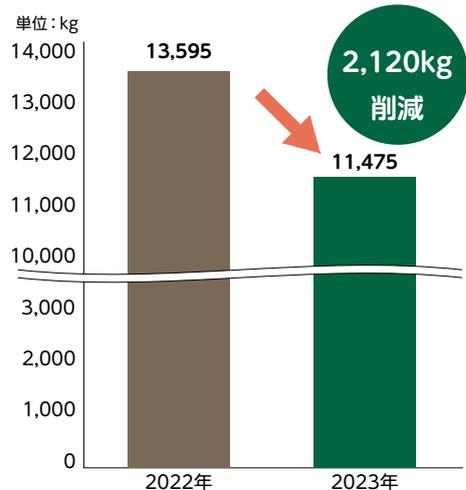


ストレッチフィルムで梱包した製品

名古屋工場では、製品の保管や運搬で使用する梱包材（ストレッチフィルム）の削減など、6つの業務を選定しました。梱包材の代替となる荷崩れ防止バンドの試験運用など具体的な削減手段を検討しています。



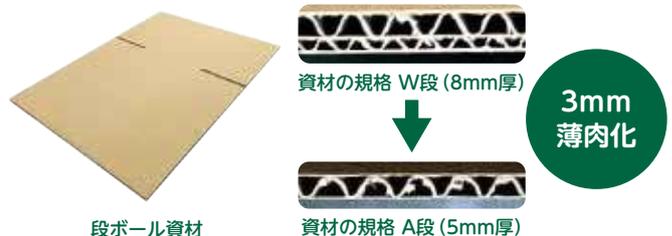
ねりごま残さの排出量 (3~10月累計)
関ヶ原工場 (第1ソフト・第2ソフト)



資材の環境配慮



製品パッケージの材質設計を見直し、包装フィルムの薄肉化を実施することで、プラスチックの使用量を削減しています。また、製品の外装箱に使用する段ボール資材も材質設計の見直しを行い、厚みを減らすことで軽量化を実現しました。2023年における同資材の紙使用量は24,016kg。試算では2024年は20,176kgとなり、3,840kgの削減（削減率16%）が見込まれます。（2023年製品出荷数を基に試算）



トピック

船舶モーダルシフトに取り組む、物流効率化とCO₂排出量削減を推進

国土交通省の「モーダルシフト等推進事業」を活用し、2023年8月から船舶モーダルシフトへの取り組みを開始しました。

三菱倉庫株式会社小牧営業所（愛知県）から株式会社キューブツク留米DC（福岡県）までの食品輸送において、経路の一部をフェリー輸送に転換しています。

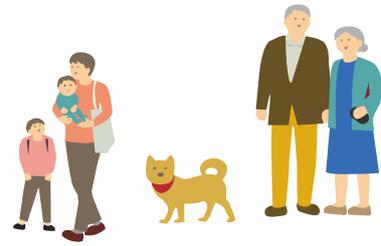


トラックの陸総距離 約 **500km** 短縮!

物流の2024年問題にも貢献!



Social 社会への取り組み



食育プログラム「ごますり体験」の活動継続



幼児期の子どもたちが、すり鉢とすりこ木を使って煎りごまをする体験を通じて、食の楽しさや大切さを学ぶ食育活動を推進しています。2023年は幼稚園・保育園、イベントなどで食育活動を実施し、1200名以上の方に参加していただきました。今後の新たな取り組みとして、高齢者向け施設で体験イベントを試験的に始めています。



ごますり体験授業の様子

ごますり体験
してみませんか？



国連WFP協会を通じた学校給食支援



皮むきタイプ
いりごま 80g



国連WFP（国連世界食糧計画）は飢餓と貧困をなくすことを使命とする食料支援機関です。当社は同機関の理念に共感し、2005年から国連WFP協会評議員の一員として途上国の学校給食支援活動に取り組んでいます。国連WFP協会が実施する、お買い物で食料支援ができる取り組みが「レッドカップキャンペーン」です。赤いロゴマークが付いた商品を購入すると、売上の一部が途上国の子どもたちの学校給食支援につながります。当社は、皮むきタイプいりごま80gなど5種類の商品を対象としてキャンペーンに参加しています。これからも商品を通じて、世界の飢餓を救い、子どもたちが教育の機会を得られるよう貢献していきたいと考えています。

チャリティイベント「WFPウォーク・ザ・ワールド2023」に参加



国連WFP協会主催のチャリティーイベントに企業団体として初めて参加しました。横浜(5/14みなとみらい)、名古屋(5/21鶴舞公園)、大阪(5/27万博記念公園)の3会場で開催され、名古屋会場では社員やその家族10名、大阪会場では社員3名が参加。参加者から「素敵な取り組みに参加できて良かったです」「心地よく歩くことができました」「また参加したいです」などの感想が寄せられました。

WFPウォーク・ザ・ワールドとは
参加費の一部が寄付金となり、途上国の子どもたちの学校給食支援に役立てられるチャリティーイベントです。



名古屋会場の参加者

トピック

11月5日「ごまの日」に胡麻の郷でイベントを開催

岐阜県関ヶ原町にあるテーマパーク「胡麻の郷」で参加型のイベントを開催しました。ごま商品などのつかみ取りや、アイスクリームに「ごま商品のかけ放題」のトッピング、当社キャラクター「シロゴマン」との撮影会など、多くの来館者に楽しんでいただきました。



商品つかみ取り企画の様子

子ども食堂と食育イベントを共同開催

10月15日にあいち野菜でつながるプロジェクトと、わいわい子ども食堂共催による食育イベント「作って学ぶ！食べて学ぶ！子ども料理教室」を愛知調理専門学校で開催。小学3年生から6年生の子どもたち42名が参加し、専門学校の先生や学生にサポートしてもらいながら、ロールキャベツ・たたききゅうり・野菜入り味噌玉の調理を体験しました。



調理体験の様子

あいち野菜でつながるプロジェクトとは
「愛知県の野菜摂取量が全国ワースト1」の課題解決を目的に、愛知調理専門学校・佐藤醸造・ママのホンネ研究所・西尾張シーエーティーヴィー・真誠が集まり、2015年に立ち上げたプロジェクトです。

経済への取り組み

Economy



保健機能食品(機能性表示食品・栄養機能食品)の普及



健康に配慮した製品の提供を通じて、安全、安心な食の健康文化を広めていきます。人びとの健康維持のサポートや健康寿命の延伸に貢献し、健やかな未来をつくってまいります。



2019年
だし香るごまあえの素
49g 機能性表示食品 発売
「加工ごま業界初」の機能性表示食品です。



2020年
高たんぱくきなこ
80g 栄養機能食品 発売
体づくりに必要な「たんぱく質」を強化したきな粉です。



2023年
黒ごまアーモンドきなこ
120g 機能性表示食品 発売
美容と健康を維持したい方におすすめのきな粉です。

有給休暇の取得推奨



2029年までに有給休暇の取得率75%を目指し取り組んでいます。総務チームより有給休暇取得の啓蒙や、時間単位有休の導入・半日有休の対象範囲拡大を軸に制度の見直しを推進しています。

有給休暇
取得率



2021年
69%

(使用数÷有給休暇附与日数 在籍者のみ)

目標値

2029年までに
75%

健康経営の推進



真誠グループが一体となって健康経営を推進し、働きがいの向上や生活の充実感を感じられる良好な職場環境づくりに努めています。

2023年は従業員の喫煙率低下(業務時間内禁煙)などの課題に取り組み、健康経営優良法人2023(中小規模法人部門)の認証を受けました。

今後は、健康経営優良法人2024(中小規模法人部門)の認証取得に向けて、有給休暇の取得率向上など心身ともに健康でいられる社会の実現に取り組んでまいります。



サステナビリティ関連認証の取得推進



真誠本社および真誠インダストリアル・パークの所在地である愛知県と岐阜県には、企業の持続可能な社会の実現に向けた取り組みを推進する様々な認証制度があります。両県におけるサステナビリティ関連認証を取得することにより、ステークホルダーの皆様とのパートナーシップを強化し、認証企業としての責任を持ちながら活動しています。

取得一覧

- 2022年 12月 『清流の国ぎふSDGs推進ネットワーク』の加入
- 2023年 1月 『エシカル×あいち』メンバーの加入
- 6月 『新はつらつ職場づくり宣言 事業場』の登録
- 9月 『愛知県SDGs登録制度』の登録



トピック

社内報「真誠 SDGsニュースレター」の発行

SDGsの社内浸透を目的としたニュースレターを月1回発行しています。SDGs全般の基礎知識、自社および他社の取組事例、国連WFPIに関する情報、「さすてなぶる さんたくクイズ」など内容は盛りだくさんです。



コーポレートメッセージ

すべての人を笑顔にしたい

真誠グループのコーポレートメッセージ「すべての人を笑顔にしたい」は、一人でも多くの方が笑顔になれば、私たちも笑顔になれる、そして、世界中に笑顔を広げていきたいとの想いを表現したものです。

この“すべての人”は、SDGsの原則である「誰一人取り残さない」と共通する概念であり、わたしたちは、社会の中で善良たる企業市民として存在しなければならないと考えています。



企業理念

真友の理想とする理念は「真心と誠実を貫き通す」ことにある。人間を幸せにする健康を商品に託し、販売を通じて、健康文化を世界に広げていきたい。

そして、人々の健康を心から願い、その事自体に喜びを見出し、その達成に情熱を持ち続けよう。



会社概要

名称	株式会社 真誠
本社所在地	〒481-8526 愛知県北名古屋市片場新町29 TEL：0568-23-3311 FAX：0568-22-4245
創立	1961年2月15日
代表者	富田 博之
業務内容	ごま製品及び即席食品の製造販売
関連会社	株式会社 真誠インダストリアル・パーク 株式会社 真誠プランニング



編集後記

真誠グループのSDGs活動は、持続可能な開発に関連する国際団体が定めた行動指針である「SDGコンパス」に基づいて推進しています。2021年10月にSDGsの理解を深めるところからスタートし、2022年12月には優先課題の決定から目標設定までの一連のプロセスを完了しました。そして、2023年1月から各部門で本格的な活動を開始し、四半期ごとに進捗を確認しながら取り組みを着実に継続しています。

今回のレポートでは、その活動内容や結果をステークホルダーの皆様にご報告させていただいております。

今後は、2025年の中期目標と2029年の長期目標の達成、そして、2030年の「ありたい姿」の実現に向けて、全社一丸となって進んでまいります。

CSR・SDGs担当 岸川敏晴

WEBアンケート ご意見・ご感想をお聞かせください。

真誠グループSDGsレポート2023をご覧ください、誠にありがとうございました。より良いレポートを制作していくために、皆様のご意見・ご感想をお聞かせください。



こちらから
ご回答を
お願いします。

ShinSei

株式会社 真誠

〒481-8526 愛知県北名古屋市場新町29
TEL:0568-23-3311 FAX:0568-22-4245
<https://www.shinsei-ip.ne.jp>



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)のことであり、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された国際目標です。

【レポート報告対象期間】2022年10月～2023年12月
【発行】2024年2月

17のゴールと169のターゲットから構成され、2030年までに持続可能で「誰一人取り残さない」より良き世界を目指しています。